質 問 状

東京大学総長選考会議
議長 小宮山 宏 殿

次期総長予定者の選考に関し、本年9月8日付で貴職の名により、「第2次総長候補者の決定について(通知)」という文書が本学教職員に通知されました。その内容およびそれにいたる経緯について、選考の透明性・公平性の観点から多くの疑義があるため、以下の通り、質問いたします。意向投票の期日が迫っているところから、2020年9月23日(水)12時までに、下記連絡先宛ての電子メールでご回答いただくことをお願い申し上げます。なお、本質問状は総長選考の過程を問題にするものであり、すでに発表された個々の第2次総長候補者の批判を意図するものではまったくなく、念のためにお断わりしておきます。

1. 第2次総長候補者3名は工学系2名、医学系1名であり、いずれも理系です。本年4月28日に総長選考会議にて改正された「東京大学総長選考会議内規」8条では、「3人以上5人以内の第2次総長候補者を定めるものとする」とあり、たしかに3人のみの推薦も許容されています。しかしながら、たとえば文系が1名もないこの候補者の顔ぶれは総合大学としての観点から見て著しく多様性を欠いたものであり、投票の選択肢を過度に狭めるものと言わざるを得ません。5名まで推薦可能であるのに、なぜこのように偏向した少人数の人選を行なう必要があったのでしょうか。

2. 代議員の投票および経営協議会からの推薦によって選出された10名程度の第1次総長候補者の氏名については、本学教職員には通知されていません。現状のように第2次総長候補者3名のみが通知されるだけでは、一般教職員の代表である代議員の投票結果との関係がまったくわかりません。たしかに得票数や順位については非公表とされていますが、総長選考会議の選考基準・方針を示す意味でも、総長選考会議の権限において、第1次総長候補者の氏名(代議員投票による候補者と経営協議会からの推薦による候補者の別も)については本学教職員に周知すべきではないでしょうか。周知できないとすれば、その理由は何でしょうか。東京大学総長選考会議規則および東京大学総長選考会議内規に、第1次総長候補者の氏名を秘匿すべしという規定はありません。

3. 貴職の名による9月8日付「第2次総長候補者の決定について(通知)」には、「第2次総長候補者の氏名並びにこれらの資料については、学内のみに公表するため取扱いにご留意願います」とあります。個人情報に関わる資料については、たしかに過去の総長選考にあたっても取り扱い注意の対象でした。しかしながら、「第2次総長候補者の氏名」についてまで「取扱いにご留意願います」とは、総長選考過程を隠匿するがごとき要請に思われ、選考の透明性の観点から重大な問題があるのではないのでしょうか。氏名についてまで、このような箝口令を思わせる措置を取る理由は何なのか、説明してください。

4. 本年実施された京都大学の総長選考をめぐることは、京都大学教職員組合や教員・学生の有志による候補者への公開質問状が複数出されたり、大学構成員による自主的な意向投票が行なわれたり

したと仄聞します。北海道大学では、総長の解任にともなう総長選考において、全候補者に対する公開質疑が行なわれ、それぞれの候補が所見を述べ、教職員や総長選考会議委員などの質問に答えています。

このような他の国立大学における総長選考と比較するとき、本学総長の選考過程が透明性を欠いていることは否めません。本年4月28日付の貴職名による文書「総長選考の実施について（通知）」に貴職自身がこう記しています——「特に、代議員会からの第1次総長候補者の推薦や第2次総長候補者への投票をめぐることは、学外の関心も高いと想定されるところです。社会からの期待に応えられるよう、東京大学の良識や伝統に則して、各構成員の真摯な行動により、総長選考が適正に実施されなければならないと考えております」。そのように考えるならば、われわれが2で触れた「第1次総長候補者の氏名」の公表を率先して行ない、第2次総長候補者名についても積極的に外部に公開して、総長選考プロセスに関する学外からの正当な関心に応え、公明正大で透明な選考過程であることをアピールすることにより、社会からの期待に応じるべきではないでしょうか。この貴職名「総長選考の実施について（通知）」には、「今般の総長選考については、大学に対する社会的要請にも留意し、総長選考会議が主体となって進める選考の透明性・公平性を一層高める観点から、所要の見直しを行ったところとあります。しかしながら、われわれ教員の実感としては、上記1～3の疑問が示す通り、過去の総長選考よりも透明性・公平性が高まったとは言えず、むしろ、はるかに不透明かつ不可解なものになっていると指摘せざるを得ません。いったいどのような「所要の見直し」により、どのように「透明性・公平性」が高まったと判断しているのか、具体的に説明していただけますか。

以上です。

上記の質問は今回の総長選考自体の正当性・妥当性に関わるものであり、冒頭に示した期限までに、可及的速やかな回答を期待しております。なお、回答をいただいたうえで、本質問状と合わせ、学内外に公開します。また、回答を期限までに頂戴できなかった場合には、本質問状のみを公開することを申し添えます。

2020年9月16日

東京大学教員有志

代表 田中 純（総合文化研究科）
阿部公彦（人文社会系研究科）
佐倉 統（情報学環）
清水晶子（総合文化研究科）
水越 伸（情報学環）
山田広昭（総合文化研究科）

連絡先：田中 純

2020sochosenko.frage@gmail.com